



ムラサキツメクサ



オス

おもてあかさらいろ
表(明るい空色)

*ツバメシジミ



うらきょうつう
裏(オス・メス共通)

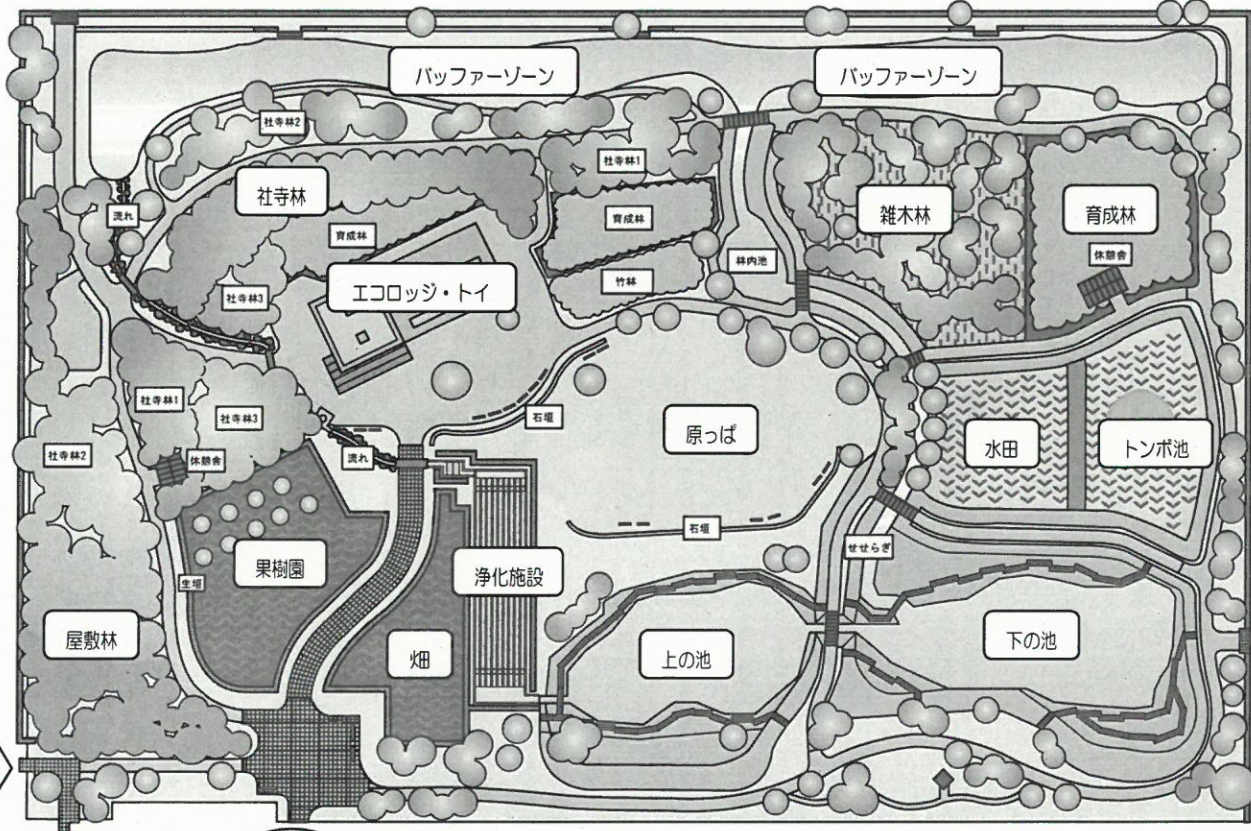


メス

おもてこっかつしよく
表(黒褐色)



シロツメクサ



*エゴノキ



なつ夏みかんの花 はな



*エノキハトガリマタフシ



アカバナユウゲショウ



ノイバラ



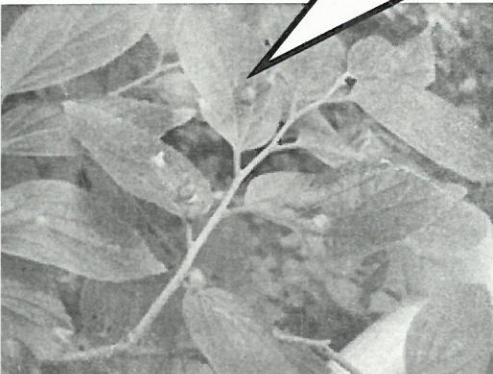
でいりぐち
出入口

てんぼうしつ
展望室

じるし うら せつめい
* 印は、裏に説明があります。

よ さんこう くだ
読んで参考にして下さい。

これなあに？



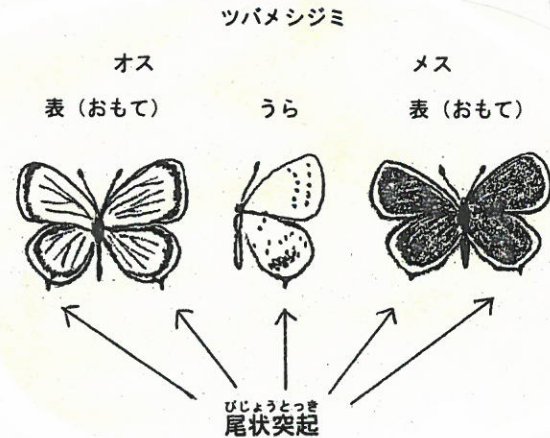
答え：エノキハトガリタマフシ

生態園でおもしろい葉っぱを見つけました。青々としたエノキの葉に、まるで花のつぼみのような先のとがった丸いものが付いています。これは、虫が卵を産み付けたことによって植物が変形してできる「虫こぶ（正式には、虫えいといいます。）」です。この虫こぶには、「エノキハトガリタマフシ」という名前が付いています。この長い名前には、エノキの葉に付いた先のとがった丸い附子（こぶ）という意味です。この虫こぶの中には、エノキタマフシというハエの幼虫が一匹ずつ入っています。エノキタマフシが、新芽に卵を産み付け幼虫とともに成熟していき、6月頃になると地上に落ちます。この幼虫は、来年春まで、虫こぶの中で過ごします。

～この季節、昆虫たちの動きも活発になり、植物もどんどん変化していきます～

＊ツバメシジミとヤマトシジミ＊

ツバメシジミと、ヤマトシジミは、大変よく似た蝶です。羽の表の色は、どちらの蝶もオスは明るい空色で、メスは黒褐色をしています。飛んでいる時に、どちらの蝶かを見分けるのは難しいですが、とまっているときに、羽を見ると見分けることができます。ツバメシジミは、羽に尾状突起があり、また羽の裏の下のほうには、オレンジ色の斑点がありますが、ヤマトシジミにはどちらもありません。ツバメシジミの幼虫は、シロツメクサなどのマメ科の植物を食べて育ち、ヤマトシジミの幼虫は、カタバミを食べて育ちます。



＊エゴノキ＊

白く可憐な花をぶら下げるように咲かせているのは、エゴノキです。花が咲いた後に育つ実もぶら下がった姿で大きくなります。有毒な果皮がのどを刺激して、えぐい（あくが強く、いがらっぽい味のことです。）ので、この名前が付いたようです。また、この実の果皮には、発泡作用のあるエゴサポニンが含まれているため、昔は洗濯石けんの代わりに使われたこともありました。エゴノキの枝先に緑白色の花のようなものが付いているのを見かけることもあります。これは、エゴノキにできた「虫こぶ」で「エゴノネコアシ」と呼ばれています。この虫こぶは、「エゴノネコアシアフラムシ」の幼虫が新芽に寄生したものです。名前のとおり猫の足の形に似ています。

